

コード	501043201
記入日:	H22.5.31

課コード	124
課名	学校教育課
課長名	竹中次郎
担当者	浦口光宣

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	奈良尾給食センター管理運営事業
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10		
施策コード	501	施策名称	学校教育の充実	項コード	6		
基本事業コード	50104	基本事業名称	教育環境の整備	目コード	4		
事務事業コード	5010432	事務事業名称	奈良尾給食センター費	細目コード	108		
関連計画			法令・条例規則等	学校給食法・給食センター条例・施行規則			

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1) 幼稚園1園、小学校4校、中学校2校 児童・生徒数 (対象2)		(対象指標1) 8校 546名 (対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	幼・小・中学校に給食を提供するため給食会へ委託を行い、施設の維持管理をおこなった。 幼稚園1園 小学校5校 中学校2校	***** 委託学校数	8校	100%	委託学校数8校÷幼小中学校数8校	***** 平成21年度
		① (達成率分析)	給食会に委託を行い、幼小中学校へ給食の提供を行なった。			
		*****	*****	*****	*****	*****
		② (達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
奈良尾・若松地区の幼稚園1園、小学校5校、中学校2校に給食を提供するため、委託を行うとともに、施設の適正な維持管理を行なうことを目的とする。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		***** 給食日数	188日	100%	給食日数188日÷計画した日数188日	***** 平成21年度
		① (達成率分析)	計画した日数どおりに、給食を提供できた。			
		*****	*****	*****	*****	*****
		② (達成率分析)				

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 校	40	32	8	8	8					
	②										
成果指標	① 日	949	949	761	188	188					
	②										
総事業費C (A+B)	千円	114,762	114,474	101,130	13,632	13,344					
直接事業費 A	千円	90,262	89,974	81,530	8,732	8,444					
人件費 B	千円	24,500	24,500	19,600	4,900	4,900					
内訳	従事職員数	人	3.5	3.5	2.8	0.7	0.7				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	114,762	114,474	101,130	13,632	13,344					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	学校教育法等に基づく事業であるため必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	新しい教育環境(食育等)の充実のため行なう必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	児童・生徒への給食の提供が目的であり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	計画したとおりに給食が提供されている。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	計画どおり給食の提供がなされていめため、経過を向上することはできない。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	児童及び生徒の心身の健全な発達が望めない。また、給食は教育の一環でありね食育の指導ができない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一の事業であり他の事業との整理統合は出来ない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	4センターの所長のあり方等を検討し、完全民営化で削減となる。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	4センターの所長のあり方等を検討し、完全民営化で削減となる。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	町が行なうべきのものであり受益者負担は発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	計画を見直す必要はない。
		有効性	児童及び生徒の心身の健全な発達に寄与している。
		効率性	民営化を検討することで経費の効率化が図られる。
		課題に向けた改善策	給食数の減少及び施設(厨房機器等)の老朽化に伴い、給食数に見合った施設の統廃合を進める必要がある。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	幼稚園への給食は奈良尾給食センターのみであり住民サービスの公平性の観点から3給食センターの事業展開の検討を要する。
効率性		給食センターの統廃合は検討を要する。給食費の徴収については引き続き徴収努力をなすこと。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
	●			事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。